

令和4年度 第4回 篠原小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月21日（火） 10時00分から11時55分まで
- 2 開催場所 篠原小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 直樹、脇本 和義、小楠 倫嗣、鈴木 好治、辻村 栄子、石津 正貴、横井 詠子、横井 秀輔、野寄 佐衣子
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 結城 知則（校長）、土屋 憲司（教頭）、中村 敦（主幹）  
井内 早穂里（CS担当教職員）、中島 和美（CSディレクター）
- 6 教育委員会 小川 誠司（浜松市教育委員会教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 中島 和美
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長が本日の議長を務めることを申し出、全員意義なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 学校評価の結果、改善策について
- (2) 来年度の学校運営基本方針について
- (3) 今年度の学校運営協議会の自己評価について

11 会議記録

司会の土屋から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校評価の結果、改善策について

主幹の中村から別紙資料に基づき学校評価の結果について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 「進んで挨拶をしている。」の評価が低い。数年前は上級生が朝早くに来て下級生に挨拶している声が聞こえたが、最近はその様子が見られない。その影響もあるのでは。（好治委員）  
→ 昨年度より、安全面から挨拶運動は校内で行っているため校外では挨拶運動の様子が見られないと思う。また、早く登校するのではなく、登校した児童から運動に参加している。（教頭）
- ・ 保護者の評価も低いのはなぜか。（直樹委員）  
→ 校外で声をかけられると不審がって挨拶をしない子もいるとも思う。（詠子委員）
- ・ 旗振りの際にはあまり挨拶を返してくれないが、学校を訪問して校内に入ると皆挨拶してくれる。旗振りの際のこちらからの挨拶は、お店などの「いらっしゃいませ」と同じ感覚なのである。挨拶の意味や良さを学校や家庭で教えてはどうか。（野寄委員）
- ・ 危険な目に遭わない程度に、お互いに気持ち良くなる挨拶ができるとよい。（好治委員）
- ・ 子どもたちから挨拶してくれる主体性があると尚良い。（直樹委員）  
→ 声が小さいことも気になっている。もっと自信をつけさせ、主体性にもつなげたい。（校長）
- ・ 学校だけでなく家庭での挨拶も大切。（秀輔委員）

- ・ 挨拶は大人が強要するものではなく、顔見知りになれば自然に出てくる。自然に挨拶ができるような地域のつながりや家庭での生活も大切だと思う。(脇本委員)
  - ・ 教職員の評価の中で「キャリア教育を意識した授業を行うことができた。」の項目がCというのはなぜか。そもそも、キャリア教育とはどういうものか。(石津委員)
- 浜松市が力を入れている方針で、昔は職場体験など職業教育のイメージだったが、現在は「今勉強していることは自分の今後の生活や仕事につながっていく」など、何のために勉強するのかを意識させ、つけたい力や目標を明確にすることがキャリア教育の核になっている。
- 実際には、今までも行ってきたことであり、児童の評価項目の「めあてを意識して学習に取り組んでいる。」は8割近くの高い評価になっており達成出来ていると思うが、先生方が「キャリア教育」を特別なことと思ってしまい、低い評価になっていると感じられる。(教頭)
- アンケート結果は先生方全員で共有して、説明の場を設けた方がいいのでは。(秀輔委員)
- ・ 「クラスは楽しく安心できる場所だ」の項目の評価が児童も保護者も高いのは良いことだ。ただ1割の保護者は不安に思っているということなので、来年度に向けてその分析、対処をしてほしい。(直樹委員)
- 学校のビジョンを保護者と共有できていないことが不安に思う理由だと思う。来年度は年度初めに学校教育目標や経営方針の説明をし、学校の取り組みを更に積極的に発信することで保護者の理解が進むよう努力したい。また、相互理解のため、来年度は三者面談を早い時期に、希望制でなく全員行うことにする。(校長)

## (2) 来年度の学校運営基本方針について

- ・ キーワードの「自立と共生」の「自立」「共生」とは具体性にどのようなものか。(脇本委員)
- 「共生」は「学び合う、助け合う」であり、これは出来ていると思う。来年度は「自立」に重点を置き、具体的には「子供達が学習を作る」ことを意識していく。授業だけではなく行事でも、教師がルールをひくのではなく子ども達がめあてを決め、そこに向かうには何をするのか自ら考えられることを目指している。(校長)
- ・ 先生が知識を注ぎ込むだけでなく、子どもたちの主体性、自主性を引き出すということは本当に大変で難しい事だと思う。先生方にも仕事の充実感を味わってもらい、先生方の良さを引き出せるよう、地域や家庭の理解・協力も大切。(脇本委員)
  - ・ 入学説明会で基本方針について説明したとのことだが、1年生のうちから「主体性」や「めあてを作る」等の学校教育目標を説明されると不安になる保護者もいるので、先生の思いや背景なども伝えられたらいいと思う。(石津委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

## (3) 今年度の学校運営協議会の自己評価について

- ・ 学校運営の基本方針について理解を深めることで、学校では「子供主体」に取り組めていると実感できた。(小楠委員)
- ・ 協議会での熟議をもとに学校支援ボランティアを発足することができた。(石津委員)
- ・ 学校の取り組みや方針を保護者や地域の方に伝える必要性を感じた。参観会に地域の方にも来てもらうなど学校について理解をしてもらえる具体的手立てを考えていきたい。(辻村委員)
- ・ 来年度は、地域・家庭・学校の先生方へ、学校運営協議会活動に対する更なる理解と協力を広げていき充実した活動を目指したい。(直樹委員)